

九州歯科大学 百周年記念式典

式辞

風薫る五月、九州歯科大学創立百周年記念式典に、文部科学省副大臣西川京子様、福岡県知事小川洋様をはじめ、国内外から各界を代表するご来賓のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。あわせて、歴代の学長および旧教職員、卒業生、保護者の皆さま方、九州歯科大学同窓会、附属衛生学院同窓会、後援会の関係各位のご臨席を賜りましたことは、私ども教職員、在校生、百周年実行委員会にとって大きな喜びであります。心より感謝申し上げます。

我が国において、歯学部を設置する大学二十九校の中で唯一の公立大学である九州歯科大学、その一〇〇年の歴史を振り返りますと、大正三年に、初代校長國永正臣先生のもとで、福岡市因幡町に九州歯科医学校として開設され、その歩みを開始しました。大正十三年に福岡市今泉町に校舎を新設し、その翌年、九州歯科医学専門学校としての指定を受けました。昭和十一年に、現在地小倉市真鶴町に建設された校舎

での教育が始まりましたが、第二次世界大戦のなか、昭和十九年に医学科が併設され、福岡県立医学歯学専門学校と改称されました。戦後、昭和二十二年に医学科が廃止され、福岡県立歯科医学専門学校に改組されました。その後、昭和二十四年に施行された学制のもと、新制九州歯科大学としてスタートし、福岡県の温かいご支援のもと、平成十八年までの五十七年間、福岡県立九州歯科大学として活動してまいりました。その間、学部棟・附属病院棟・解剖棟の竣工、附属歯科衛生学院の設置、大学院歯学研究科の開設など、充実した教育環境が整備されました。

平成十一年、新たな附属病院が竣工され、平成十八年、教育棟である本館および講堂の竣工と続き、現在の真鶴キャンパスが完成しました。あわせて、九州歯科大学は、平成十八年に県立大学から福岡県を設置団体とする公立大学法人九州歯科大学となり、平成二十二年歯学部には四年制の口腔保健学科が設置されました。今年度、口腔保健学修士課程の大学院が開設され、大学の理念のもと、口腔医学の総合大学を目指して教育活動を展開しております。

今回、本学の一〇〇年の歩みを振り返ってみ

るに、我が国における歯学教育の先陣を切るなかで、第二次世界大戦という大きな歴史の流れを乗り越えて、今日に至った道のりは、決して平坦なものではありませんでした。本日、創立一〇〇周年を迎えるにあたり、我々は、多くの先輩方が艱難辛苦のなか、九州歯科大学を発展させてきたことを決して忘れることなく、これからも公立大学法人という特色を活かした教育・研究・臨床活動を展開していくことをお誓い申し上げます。

さて、文部科学省は、ここ数年、大学改革実行プラン等を通じ、大学に対し、社会の変革のエンジンになる大学づくりを提言しています。さらに、法人化した国公立大学に対して、大学のガバナンス改革の推進を求めています。その一方で、歯科医学教育を取り巻く環境が大きく変化しているなかで、優秀な歯科医療人の養成を社会から負託されている医療系歯科大学としては、継続的な歯科医学教育改革を遂行し、我が国における歯科医療の進歩に貢献しなければなりません。

九州歯科大学は、平成二十四年度からの第二期中期計画において、学長のガバナンス機能の強化を図るなかで、あらたな歯学部教育改編を

開始しました。そこでは、初年時から、自らを律した大学生活を送り、本当の意味でのプロフェッションとして社会に貢献するという高い志を持ち続けることを重要視した教育体系の確立を目指しています。それを達成するために、知識・技術・プロフェッショナルリズムの三本柱を立て、統合型教育を通じて、効率的なスパイラルアップ教育体系を確立すべく、日々、教育改善に励んでおります。

現在、疾病構造が大きく変化している歯科医療においては、歯科医療職に対して、これまで以上に科学的根拠に基づく歯科医療（いわゆる Evidence-Based Dentistry）を実践する能力が求められます。とくに、日常の歯科医療活動において、自ら医療現場で課題を見出し、その課題を解決するために必要なロジカルシンキングおよび・クリティカルシンキング能力を養うことはきわめて重要であり、大学に対し、そのため体系的な教育体制作りが求められていると認識しています。さらに、多角的な視点から課題を解決するためには国際的な視野を持つことも重要となってきます。

九州歯科大学は、平成二十五年に、伝統ある

九州歯科大学の英語表記を Kyushu Dental College から Kyushu Dental University に変更しました。その後、ミャンマーのヤンゴン歯科大学とマンダレー歯科大学、台湾の高雄医科大学、香港大学、タイのシーナカリンウイロート大学、インドのシュリ・ラーマチャンドラ大学、フィンランドのヘルシンキ大学、カナダのブリティッシュコロンビア大学、あわせて八大学と歯学教育研究連携協定を結び、学生と教員の連携を深める海外活動を開始しました。本式典には、以前から提携していた中国の同済大学を含めて、九つの大学から、学長・学部長をお招きしています。今後、多くの学部学生、大学院生が海外教育連携校での生活を経験して、グローバルな視野を持った歯科医療人となることを切望しております。

このような取組みを遂行いくとお話ししたうえで、本日、私から、ひとつの行動規範を提言いたします。それは、「Think globally, act locally (すなわち、世界規模で考え、足元から行動せよ)」であります。このような先駆的精神を醸成し、自ら課題を解決できる歯科医療人を養成することは、これからの歯科医療を変革していくうえできわめて重要です。このよう

な認識のもと、九州歯科大学は、現在展開中の
歯科医学教育イノベーションを加速させ、歯科
医療界において、強いリーダーシップを発揮する
人材の育成に努めてまいります。

むすびに、百周年記念事業を機にブランドイ
メージの確立を目指している本学のブランド
戦略をお話しします。今年、公立大学法人とし
て、Domain Identity、Visual Identity、
University Identityを制定し、そのブランド
ゴールとして、Local and Global
Collaborative Dental Educationを掲げまし
た。そのなかで、我々は、他職種と協働して地
域社会に貢献し、その経験を活かしてグローバ
ルな視野で活躍できる人材を育成してまいり
ます。本日の式典で、このプロジェクトを積極
的に進めていくことを皆様にお誓い申し上げ、
重ねて、本学へのご厚情とご指導・ご支援を賜
りますよう、心からお願い申し上げます。私
からの式辞と致します。

平成二十六年五月一〇日

公立大学法人九州歯科大学

理事長・学長 西原 達次